

誰もが安心して暮らせる優しいまち

新型コロナウイルス感染症や物価高騰への対策

- ▶ 救急、保健、医療の効率的な連携による感染対策への体制の確保
- ▶ 市民生活や地域経済、市内事業者の状況を見極めた効果的な支援策の実施

生涯にわたる福祉の充実

- ▶ 専門家の指導による健康体操などの介護予防等
- ▶ 介護・医療のシームレスな連携に必要なシステムの構築
- ▶ バリアフリーのまちづくりを推進
- ▶ 複雑化する生活課題に対応するために「断らない相談窓口」による相談・支援体制を充実
- ▶ 高齢者の生きがいづくりや就労の場づくり、障害者の社会参加や自立に向けた支援体制づくり

災害の備えと水道老朽インフラ等への対策強化

- ▶ 紀の川の治水と農地防災の国への働きかけ、中小河川の治水対策
- ▶ 事前復興計画の推進と防災情報伝達の強化を含めた、地域の防災・減災対策の推進
- ▶ 水道インフラのリダンダンシーを早期に確保

ふるさとで学び働けるまち

学生が「集まる」「つながる」を地域の力へ

- ▶ 地域に必要な分野の大学や専門学校の誘致
- ▶ 既存の大学への新たな学部・大学院の設置促進
- ▶ 学生の地域活動を促進・支援

地場産業の振興と新たな企業の誘致

- ▶ 企業の生産性向上等の取組に対する支援の充実
- ▶ 本市に不足している業態の事業者について誘致を強化
- ▶ デジタル等の新技術活用やグリーン成長戦略を通じた新産業の創出・成長の促進
- ▶ 一次産業の担い手となる人材の確保・育成に対する支援
- ▶ 農水産物のブランド化に向けた付加価値の向上
- ▶ 和歌山環状北道路の早期実現に向けた働きかけ
- ▶ 和歌山北 IC のフルインター化の促進

地域に貢献する観光の実現

- ▶ 加太、和歌浦、紀三井寺等の主要観光地の魅力の磨き上げ
- ▶ 地域の人にも喜んで利用いただける魅力ある観光地の整備
- ▶ スポーツ・文化ツーリズム等の観光パッケージの造成など新しい観光形態を推進するとともに、集客力のあるキラークンテンツを形成し、「稼げる観光」を推進

県都として活力にあふれたまち

水と緑の環境都市への取組

- ▶ 市堀川などを中心とした“かわまちづくり”
- ▶ 天守閣の整備検討や西之丸庭園の保存活用
- ▶ 和歌山城扇の芝を含めた“緑の回廊”の整備を検討
- ▶ 脱炭素社会の実現に向けた先行的な取組
- ▶ JR 和歌山駅周辺の活性化と旧市民会館跡地の利活用
- ▶ 中央卸売市場の耐震化や南用地活用による道の駅の整備等

誰もが移動しやすいまちの実現

- ▶ 新しいモビリティの導入や新駅設置を視野に入れた検討など交通ネットワークの強化
- ▶ MaaSなどを駆使した交通の利便性向上
- ▶ サブスクリプションを含め低価格で乗車できる地域バスの路線を拡大

快適でスマートなまちの未来

- ▶ 行政 DX と地域のスマート化の推進

スポーツ・文化・芸術の振興

- ▶ 誰もが多様なスポーツを楽しめるような施設の整備
- ▶ ライフステージや障害等の有無に関わらず、生涯にわたりスポーツを行うことのできる環境の構築
- ▶ 誰もが文化芸術に触れられる機会の創出、文化芸術活動を通じた市民の交流促進
- ▶ 文化財や伝統的な文化芸術の保存・発展を支援

子供たちがいきいきと育つまち

未来へつなぐ子育て支援

- ▶ 子育て世代包括支援センターや子育てひろば等の交流場を通じた支援、新生児訪問等の実施など切れ目のない子育て支援の充実
- ▶ 児童虐待や不登校、ヤングケアラーなどへの寄り添い型支援の充実
- ▶ 学童保育の充実、保育人材の確保や待機児童の解消
- ▶ 病児保育、病後児保育など多様な保育の充実
- ▶ 高校卒業までのこども医療費無償化

未来をつかむ力を育む教育

- ▶ 少人数学級の推進や特別支援教育、相談機能の充実
- ▶ GIGA スクール構想の更なる推進
- ▶ オーガニック給食の推進や市立中学校全員給食の早期実施、中学校給食費の無償化
- ▶ 中学校体育館への空調整備やトイレの洋式化など教育環境の向上を促進



この度の和歌山市長選挙におきまして、多くの市民の皆様から力強いご支援と温かいご厚情をいただき、三選を果たすことができました。和歌山市の更なる発展のために全力で取り組む決意であります。

市長に就任して2期8年間、若者の県外流出、市内中心部の空洞化等、山積する難問に立ち向かうため「和歌山市の衰退を止めたい、和歌山市を変えななくては」という想いのもと、廃校舎を活用したまちなかへの大学誘致、市民図書館や市民会館の耐震化とあわせた魅力向上など、にぎわいを生み出す都市空間を整備してきました。その結果、昭和49年以来

続いてきた人口流出にも歯止めがかかり、子育て世代を中心に転入が増加し、令和元年には45年ぶりに市全体として転入超過に転じるなど、まちの中に若者の姿を随分見かけるようになり、変化の兆しが感じられるようになりました。

ところが、襲来したコロナ禍により事態は一変し、大きな政策転換を余儀なくされました。今なお続くコロナ禍や昨今の物価高騰による生活への影響は非常に厳しく、まずはこれからの経済復興を果たし、安心して暮らすことのできる日常を取り戻すことが喫緊の課題であると考えています。

3期目は、上に掲げた4つのまちの将来像に向けた取組を進め、本市固有の歴史・文化、自然環境などの魅力をしっかり磨き上げるとともに、行政のデジタル化や脱炭素社会の実現に向けた先行的な取組など、新しい時代の潮流を捉え、市民の方々の対話を重視する市民目線の市役所改革を更に推進しながら、的確な施策によって都市や経済の成長を促し、必要な財源を確保する「経済の成長と福祉の充実の好循環」を成し遂げてまいります。

また、2025年の大阪関西万博や2037年のリニア新幹線の新たな開通など、本市を取り巻く広域プロジェクト等からも地方創生の潮流を呼び込み、市民の皆様とともに「オール和歌山」の力で、人を育み、活力にあふれる、誰もが安心して暮らすことのできる「さらに輝く元気 和歌山市」を目指していきます。

今後とも皆さまのご理解ご協力をお願い申し上げます。

和歌山市長 尾花 正啓